

# 令和2年度 学校関係者評価報告書

令和2年11月25日

学校法人大原学園

大原和服専門学園

## 1. 学校関係者評価の基本方針

学園教職員で構成する自己点検自己評価委員会が取りまとめた自己評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会を行い、委員の多角的な意見をふまえ、より質の高い効果的な学校運営の改善のための具体案をまとめ、それをもとに組織的かつ継続的な学園運営の改善活動を行うとともに、学園の関係者に当学園の情報を開示し共有することで学園に対する理解と協力を促すこともあわせて目指していく必要がある。

その結果、当学園の社会での認知を上げるとともに当学園で学ぶ学生に対する教育の質の組織的かつ継続的な向上を実現し、学園の社会的な役割を高めていくことを学校関係者評価の基本方針とする。

## 2. 令和2年度学校関係者評価委員会開催概要

今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、7月に予定していた第1回目を見合わせ第1回・第2回を合同で行うこととした。

### 第1回

開催日時：令和2年10月17日（土）14：00～16：00

開催場所：大原和服専門学園 2F講堂

委員会内容：1. 報告事項 令和2年度の学園の状況及び新型コロナウイルス感染症に関する対応などの説明  
2. 学校関係者評価

## 3. 大原和服専門学園学校関係者評価委員名簿

奈良県職業能力開発協会	専務理事	小西彰
美芸学園高等専修学校	校長	西村典久
大阪和服裁縫協同組合	理事長	大森貴之
卒業生代表		松本美波

## I. 重点目標

特になし

### 基準 1. 教育理念・目的・育成人材像

特になし

### 基準 2. 学校運営

#### ● 1年次における効果的な学習体制について

(学園の方針)

昨年度より縫製で残る卒業生が学生指導をサポート体制をすすめている。将来的には残ってくれる卒業生を増やしていき、在校生が分からないことを指導してもらうような取り組みを始めている。

また、この制度をより効果的にするための特待生制度について昨年度は採用に至らなかったが、今年度は在校生1年生の成績により、希望者には特待生に指名できるように検討していきたい。

### 基準 3. 教育活動

特になし

### 基準 4. 多様な学生の受け入れ

#### ● 多様な学生の受け入れに関して留学生についてはどのように考えているのか。

(学園の方針)

専門学校で増加している留学生ではあるが、現在学んでいる技術で就職できないため、どのようなニーズの留学生を募集することが適切か検討する必要があると考えている。

#### ● その他の受け入れを考えている層はあるのか。

(学園の方針)

近年、年齢が高い方々の問い合わせなどがでてきている。体験入学会などへの参加もあるが、入学に結び付くケースが少ない。奈良まで来て入学する必要があるため、障害が高い。その障害を低くするには、オンラインを活用した通信課程など、気軽に継続して学ぶことができる教育サービスを行う必要があると考えている。現在は、教職員の動画編集のスキルの向上を図りながら対応ができる体制を整えていきたい。

### 基準 5. 産業界との連携

特になし

### 基準 6. 就職進路

#### ● 新型コロナウイルス感染症による就職等の影響はどうか

(学園の方針)

業界全般に厳しい状況になっている。ただ、その中でも業績を伸ばしている会社もあり、そのように挑戦している会社に学生をマッチングする必要がある。ただ、今後は独立開業できる流れを整備する必要があるとも考えている。それにともない、日本和裁士会等と関係機関と連携して卒業生が

継続して人脈やビジネスの幅を広げる環境を整備する必要があると考えている。

## 基準 7. 学生支援

●学生寮について 御校の教育の強みと思えるが共同生活に問題はないのか。

(学園の方針)

学生の気質が変化してきており、昨年まで寮長、副寮長制で運営していたが、今年度より 5 班に分かれ班長制に変更した。寮のルールがなかなか伝わらない状況の中、寮長が一人で対応していたため、小グループに分けて伝達やサポートができるように替えた。

●給食について

個々の食事の趣向も多様化しており、かつアレルギーの対応など年々大変になるのではないかと、それに対するコストはあっているのか。

(学園の方針)

今年度グルテンフリーの学生が入学した。グルテンフリーは小麦を含む様々な食品に含まれている。当初は慣れないこともあり大変であったが、徐々に対応できるようになってきている。調味料などグルテンフリーのものは価格も高く、また手間もかかるため、保護者に理解を頂き給食費は少し高めに設定している。また、問題が発生する場合も予測されるので、入学時にはアレルギー対応における同意書に署名、捺印を貰っている。

学生数の減少に伴い食数が減少し、食堂会計の収支が悪化しているため、仕入を可能な限り生産者から仕入れるように工夫し、質を落とすことなく原価を下げ工夫を行っている。

## 基準 8 卒業生支援・連携

●卒業生との連携は今後ますます重要になると思われるが、卒業生との繋がる手段についてどのように考えているのか。

(学園の方針)

現在、LINE、SNS 等便利なツールがあり、LINE 等で卒業生グループを作るなどして卒業生の声がタイムリーに把握することができるようにする必要がある。

## 基準 9 施設・設備

特になし

## 基準 10 学生募集と受け入れ

●今後少子化が進み学生募集は難しくなると思えるが、それに対してどのような対策を考えているのか。

(学園の方針)

現在の学生は着物が好きなので入学してくるが、着物・和裁を仕事として知られていない。今後はインターネットの活用することで、着物を学ぶことができるサイトなどの開設を通して専門学校の存在も気づいてもらえるような導線をかんがえて対応する必要があると考えている。

## 基準 1 1 財務

- 新型コロナウイルス感染症の影響により様々な収益が厳しくなることが予測されるが、今後の展望はどう考えているのか。

### (学園の方針)

収益改善がプラスに転じていけるようにするためには、学生数の確保が重要と考えている。コロナ禍でオンライン説明会を実施し、興味のある人にはデジタル対応を視野に入れながら学生募集を行う必要がある。

また、和裁学科の産学協同システムのように、きもの学科の産学協同システムの構築も課題である。振袖などのオーダー受注を実践的に行い、在学中から独立開業の道も見据えることができるような流れを作りたいと考えている。

## 基準 1 2 法令等の遵守

特になし

## 基準 1 3 自己評価・学校関係者評価

特になし

## 基準 1 4 情報公開

特になし

## 基準 1 5 地域にひらかれた学校づくり

- 今後はリカレント教育など継続した社会人の受け入れや学生募集に好影響を与えるために、地域に発信する活動も必要であると思われるが、どのように考えているのか。

### (学園の方針)

いずれも非常に大事だと考えているが、教職員数にも限界があり、積極的には活動ができない状況である。今後は卒業生や関係機関とも連携しながら無理なくできるよう環境を整えていきたい。